

第 25 回 新得町地域公共交通活性化協議会議案

と き 令和2年1月21日（火）16:00～

ところ 新得町役場 大会議室

会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 新委員の紹介

4 報告事項

報告第1号 経過報告 1

報告第2号 平成30年10月～令和元年9月のコミュニティバス利用状況 2

5 議 題

議案第1号 地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について 5

議案第2号 コミュニティバスの一部路線変更について . . . 11

議案第3号 コミュニティバスの屈足地区線における路線変更案について . . . 14

6 そ の 他

7 閉 会

新得町地域公共交通活性化協議会 委員名簿

令和2年1月21日現在

	分野	所属団体名等	役職	氏名	備考
1	計画策定	新得町	副町長	金 田 將	会長
2	道路管理者	帯広開発建設部道路計画課	課長	谷 津 臣 則	
3		十勝総合振興局帯広建設管理部鹿追出張所	所長	田 中 孝 幸	
4	公共交通事業者	北海道拓殖バス株式会社	業務部長	小 森 明 仁	
5		新得ハイヤー有限公司	社長	石 畑 政 俊	
6		北海道旅客鉄道株式会社新得駅	駅長	樋 口 守	
7		北海道地方交通運輸産業労働組合協議会 十勝地区交通運輸産業労働組合協議会	副議長	高 橋 敏 朗	
8	利用者代表	新得町商工会	会長	湯 浅 悟 史	副会長
9		屈足商工振興協議会	会長	竹 浦 隆	
10		新得町観光協会	会長	安 田 昌 行	
11		社会福祉法人 新得町社会福祉協議会	会長	齊 藤 仁	新
12		しんとく町女性の会	会長	中 井 由 利 子	
13		新得市街地区連合町内会	会長	海 老 名 宏 之	
14		屈足連合町内会	会長	安 久 津 充 政	
15	運輸局	北海道運輸局 帯広運輸支局	首席運輸企画専門官	笹 治 忍	
16	警察	新得警察署	地域課兼交通課長	小 川 大 悟	
17	北海道	十勝総合振興局地域創生部地域政策課	課長	千 葉 敬 貴	
	事務局長	新得町地域戦略室	室長	東 川 恭 一	
	事務局員	新得町地域戦略室	室長補佐	福 原 浩 之	
		新得町地域戦略室地域戦略係	係長	清 野 能 伸	
			主事	本 田 浩 平	
			主事	西 尾 亜 衣	

報告第1号

経過報告（第24回協議会以降）

令和元年

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 8月31日 | 花火大会にてコミュニティバスPR運行 |
| 12月16日 | まちづくり出前講座（老人クラブ（すこやかクラブ）18名参加） |

報告第2号

平成30年10月～令和元年9月のコミュニティバス利用状況

1. 1日あたりの乗車数＜別紙1＞

(1) 総計（新得市街地＋屈足地区）

平成30年10月から令和元年9月にかけて、前年度同月と比較すると半数の月において利用者が減少している。また、目標を32.7人/日（10月～11月、4月～9月）及び、33.1人/日（12月～3月）と設定しているが、目標値と比較すると、下回っている月が多く見られる。

(2) 新得市街地

利用状況から推測すると、西地区から東地区へ、日常の食料や日用品の買い物、通院に利用する方が多く、午前中の3便、午後の4便を利用する方が多い。

(3) 屈足地区

屈足地区から通院のための利用や、教育委員会で配布している無料乗車券を使った町営温水プールに通う児童の利用もあり、午前中の1便と午後の3便の乗車及び降車が多い。

（表1 補助年度別月別1日当たりの利用者数 （単位：人/日））

	H30 補助年度			H31 補助年度		
	新得市街地	屈 足	合 計	新得市街地	屈 足	合 計
10月	16.5	17.1	33.6	14	14.6	28.6
11月	19.9	13.1	33	18.8	12.2	31
12月	23.8	12.9	36.7	23.9	12.5	36.3
1月	20.3	12	32.3	19.6	12.2	31.8
2月	22	12.5	34.5	22.8	16.1	38.9
3月	18	10.8	28.8	17.2	13.4	30.6
4月	17.7	11.9	29.6	17.9	13.2	31
5月	17.6	14.6	32.2	15.6	12.9	28.5
6月	16.4	13.9	30.3	16.8	12.5	29.3
7月	14.8	12.4	27.2	15.5	12.7	28.2
8月	15.7	9.8	25.5	15.1	11.9	27
9月	16.2	12.7	28.9	17.7	14.4	31.8

2. 利用の多いバス停（各地区上位3か所）

(1) 新得市街地線

- ・西地区：新得駅、相馬商店、フクハラ
- ・東地区：なごみ、公民館、温水プール

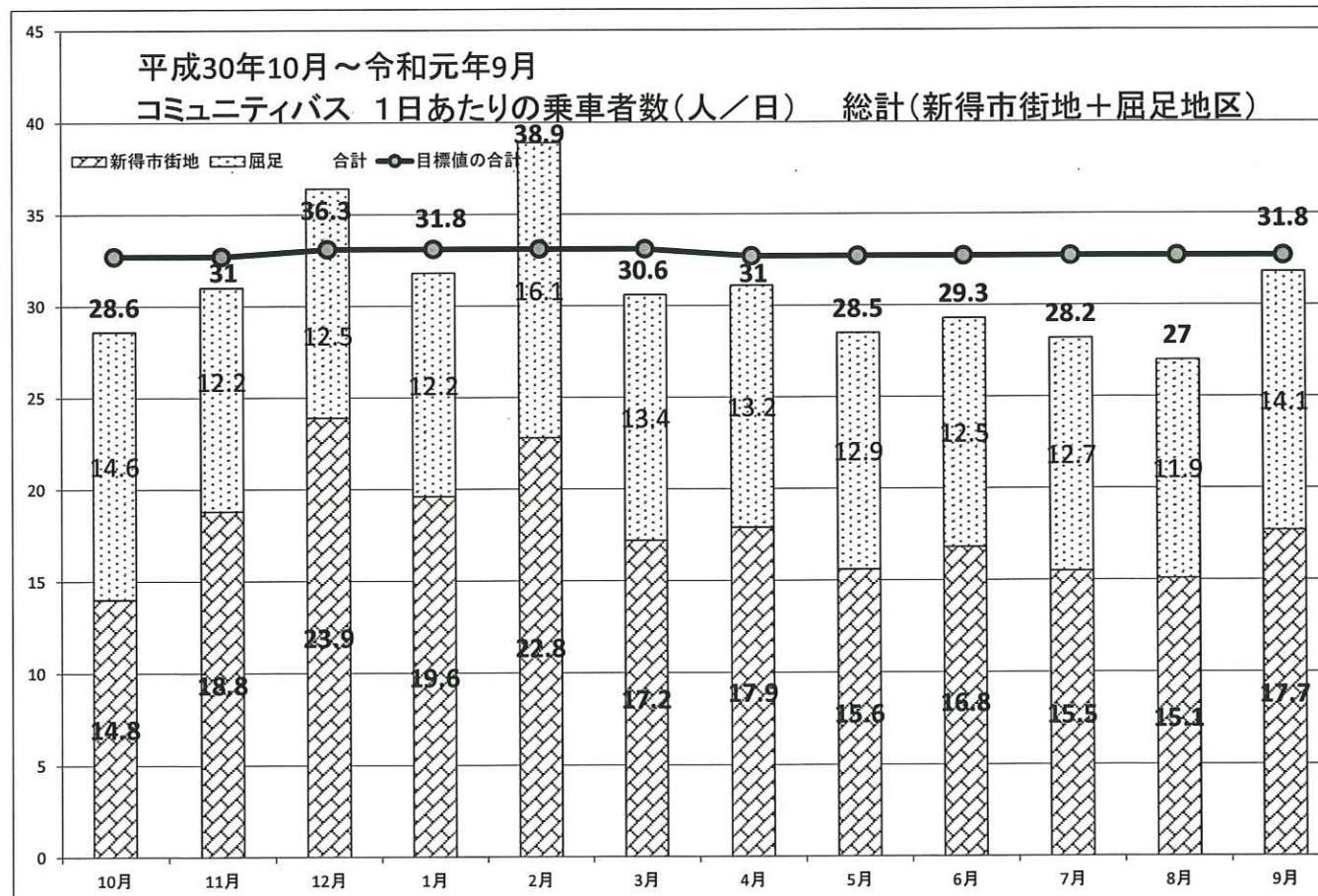
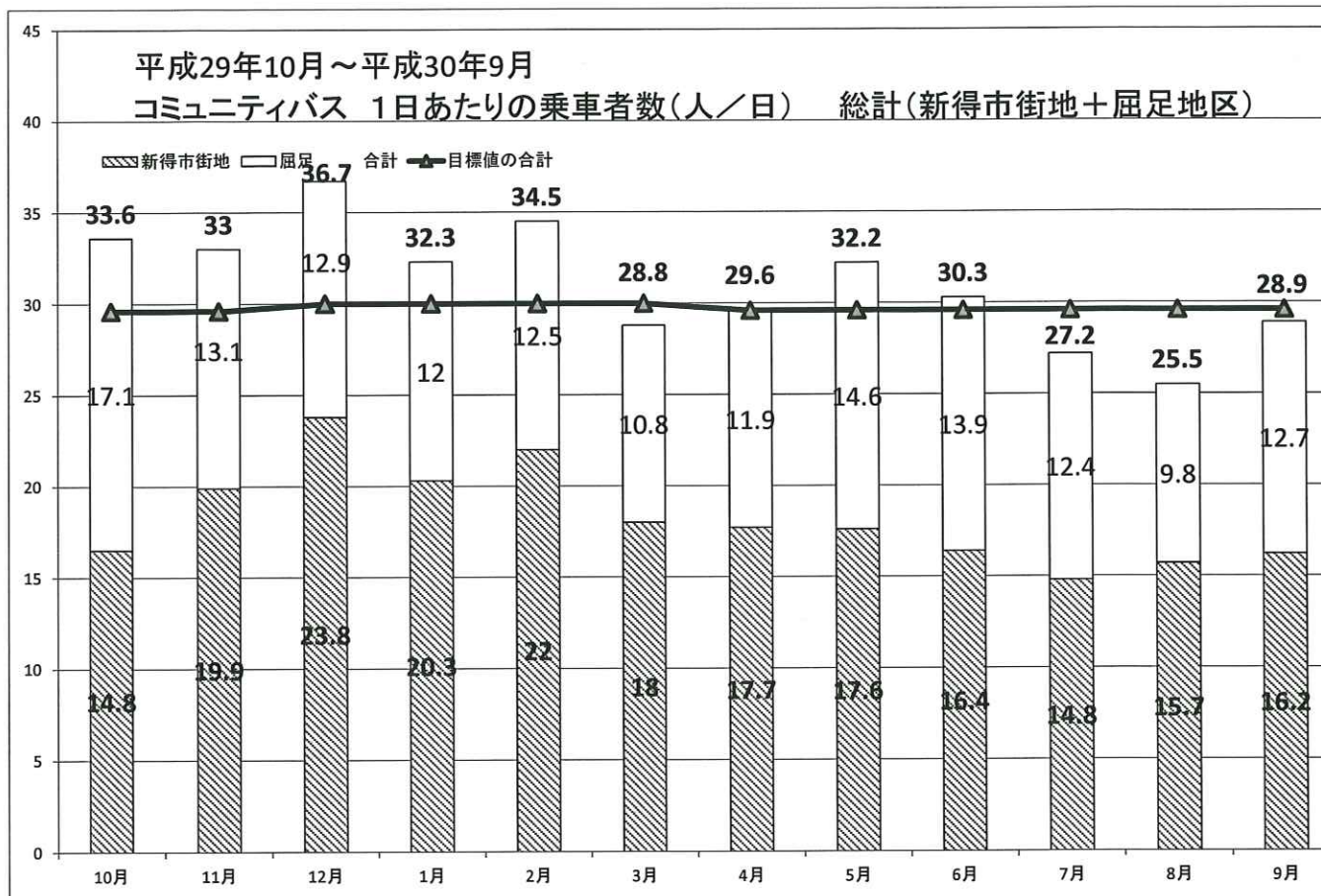
(2) 屈足地区線：屈足22号、総合会館前、かえで中央

＜参考＞屈足早朝便の利用状況（コミュニティバス車両使用）

1便については、平成28年7月より運行を開始しており、屈足から帯広方面の高校へ通う学生のうち、始発列車を利用する学生の利用により、最大で6名/日が利用している。

2便については、屈足から帯広方面の高校へ通う学生の利用が多く、最大で11名/日が利用している。

利用の多いバス停は、フクハラ屈足店、幸町4丁目、総合会館となっている。



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 年 月 日

協議会名：新得町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
51 北海道拓殖バス株式会社	新得市街地線 1日5便 （JR新得駅前～新得公民館前 ～JR新得駅前） 屈足地区線 1日3便 （JR新得駅前～屈足総合会館 前～JR新得駅前）	・事業計画に位置付けた目標の達成、利用促進に向け、バスの周知・PRや回数券の販売・無料運行デーを継続して実施した。 ・町FACEBOOKにて利用促進を図るための投稿を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	乗車人数については、利用の実態を踏まえた目標値とすることによって、目標乗車人数32.7人/日（4月～11月）に対し29.4人/日、33.1人/日（12月～3月）に対し34.4人/日と降雪のある期間については目標を達成することができた。 ○詳細 B 4月～11月（降雪のない期間） ・新得市街地→18.4人/日に対して、16.4人/日 ・屈足地区→14.3人/日に対して、13.0人/日 12月～3月（降雪のある期間） ・新得市街地→21.0人/日に対して、20.9人/日 ・屈足地区→12.1人/日に対して、13.6人/日	バスの周知・PRを継続し、町民が利用しやすい路線や運行ダイヤの再検討によって、より利便性が高く、身近なライダー交通として維持していく。 また、目標乗車人数の設定方法について見直しを行い、実態に基づいた目標値の設定を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	新得町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィードーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	新得町は、北海道の重心に位置しており、面積1063.83km²、人口は令和元年12月末現在で6,098人の町である。本町の幹線の交通については、一定の公共サービスが充足しているものと考えられていたが、幹線へつなげるフィードー交通がないため、住宅地と幹線交通の駅や停留所に距離があり、公共交通が利用しにくい状況となっていた。 コミュニティバス「そばくる」の運行により、有料にも関わらず、多くの方に利用いただいており、住民の移動手段としての公共交通の必要性が十分に確認されているところである。 住民に将来にわたって住み続けたいと思われれる町を実現するため、また、今後のさらなる高齢化に向けた対策として、JRや既存路線バスの地域間幹線系統と接続したフィードー交通(コミュニティバス)の確保維持が不可欠となっている。

新得町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

新得町は、北海道の重心に位置しており、面積1063.83km²、人口は令和元年12月末現在で6,098人の町である。

本町の幹線の交通については、一定の公共サービスが充足しているものと考えられているが、幹線へつなげるフィーダー交通がないため、住宅地と幹線交通の駅や停留所に距離があり、公共交通が利用しにくい状況となっていた。

現在、コミュニティバス「そぼくる」の運行により、有料にも関わらず、多くの方に利用いただいており、住民の移動手段としての公共交通の必要性が十分に確認されているところである。

住民に将来にわたって住み続けたいと思われれる町を実現するため、また、今後のさらなる高齢化に向けた対策として、JRや既存路線バスの地域間幹線系統と接続したフィーダー交通(コミュニティバス)の確保維持が不可欠となっている。

地域公共交通の現況

- ・JR石勝線(新得駅)
- ・JR根室本線(新得駅)
- ・北海道拓殖バス株式会社(町内5路線)
- ・スクールバス(町内小中学校向け5路線、支援学校向け1路線)

生活交通確保維持改善計画の目標

4月～11月(積雪のない期間)

- ・新得市街地→18.4人/日
- ・屈足地区→14.3人/日

12月～3月(積雪のある期間)

- ・新得市街地→21.0人/日
- ・屈足地区→12.1人/日

協議会開催状況

平成31年1月17日 協議会を開催

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について

令和元年5月14日 協議会(書面会議)を開催

- ・コミュニティバス運賃の変更について

令和元年6月24日 協議会を開催

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画について

令和元年度事業概要

○新得市街地線 1日5便(JR新得駅前～新得公民館前～JR新得駅前)

運行日数:291日、運行回数:1455回

○屈足地区線 1日3便(JR新得駅前～屈足総合会館前～JR新得駅前)

運行日数:291日、運行回数:873回

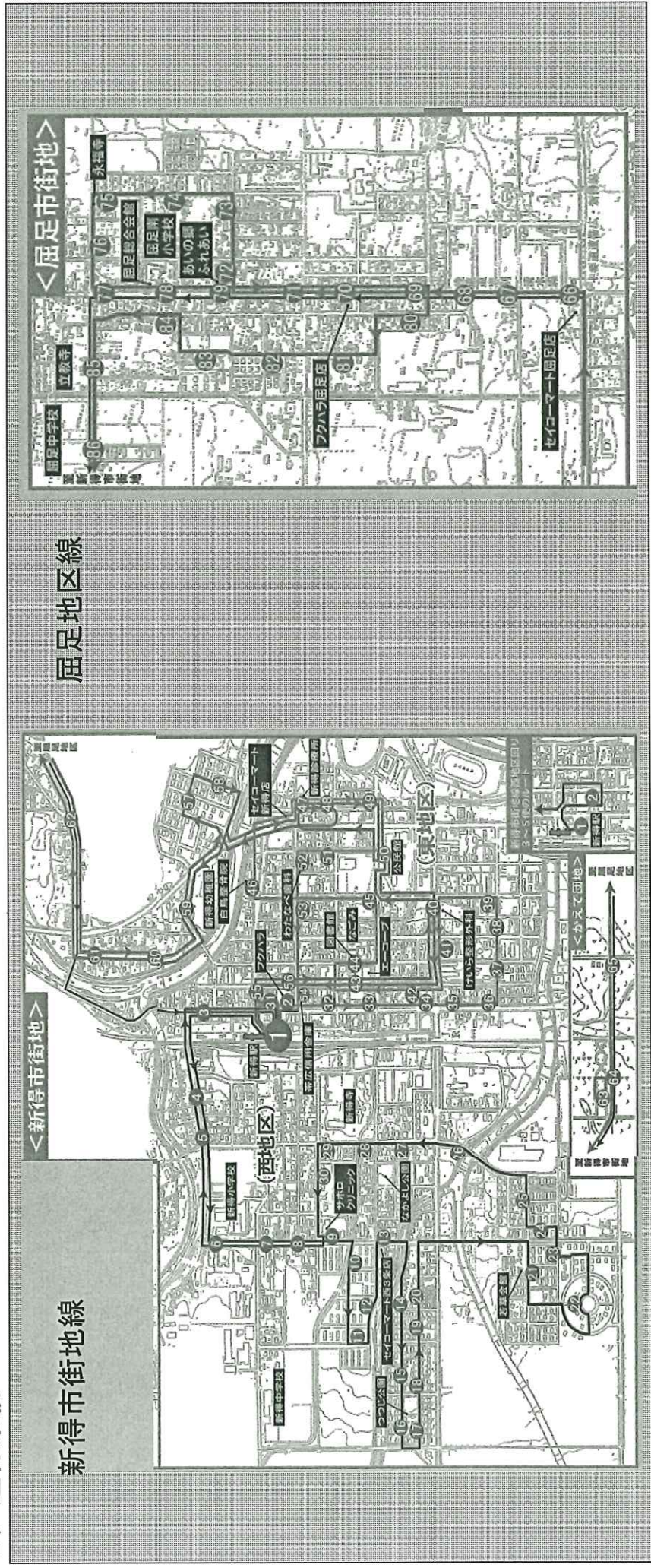
○運賃はいずれも100円(小中学生・障がい者は50円)

令和元年度事業の実施状況

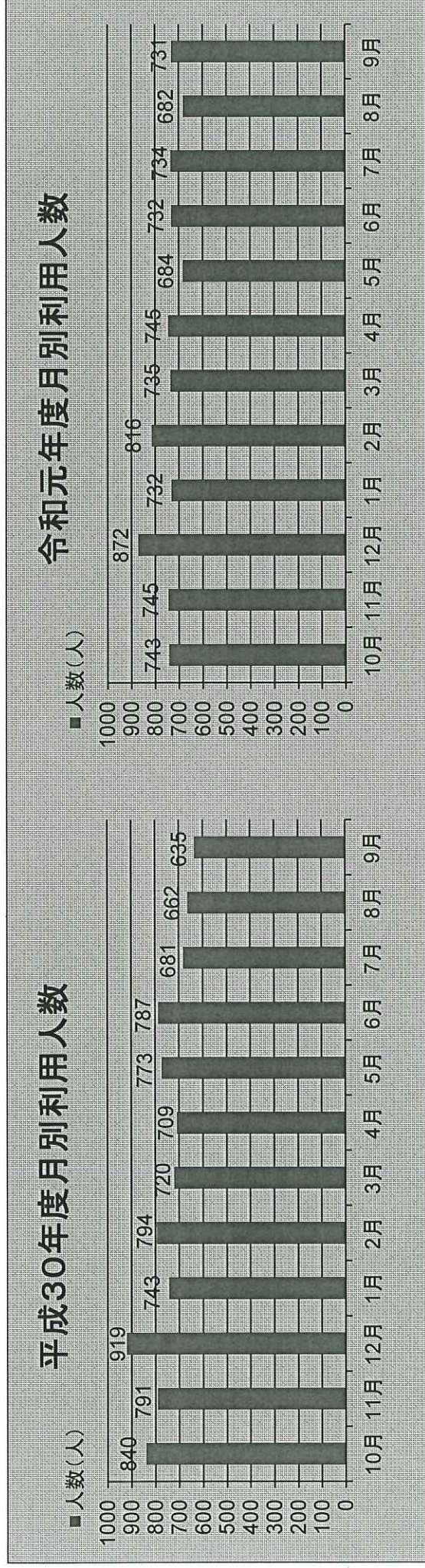
1) プロセス、創意工夫

- ・町内イベント(うまいもん温カフェ・花火大会)での運行PR
- ・屈足方面から町営温水プールを利用するために移動が必要な児童に対して無料乗車券の配布を実施(新得市街～屈足市街間)
- ・ポケット時刻表及び新得町総合交通時刻表の配布
- ・スポーツ少年団支援として、スケート少年団員に対して無料乗車券の配布を実施(新得市街～屈足市街間)
- ・回数券の販売(12枚綴り1,000円、小中学生・障がい者は500円)
- ・無料運行デーの実施(毎月第4土曜日)
- ・町FACEBOOKへの利用促進に向けた投稿

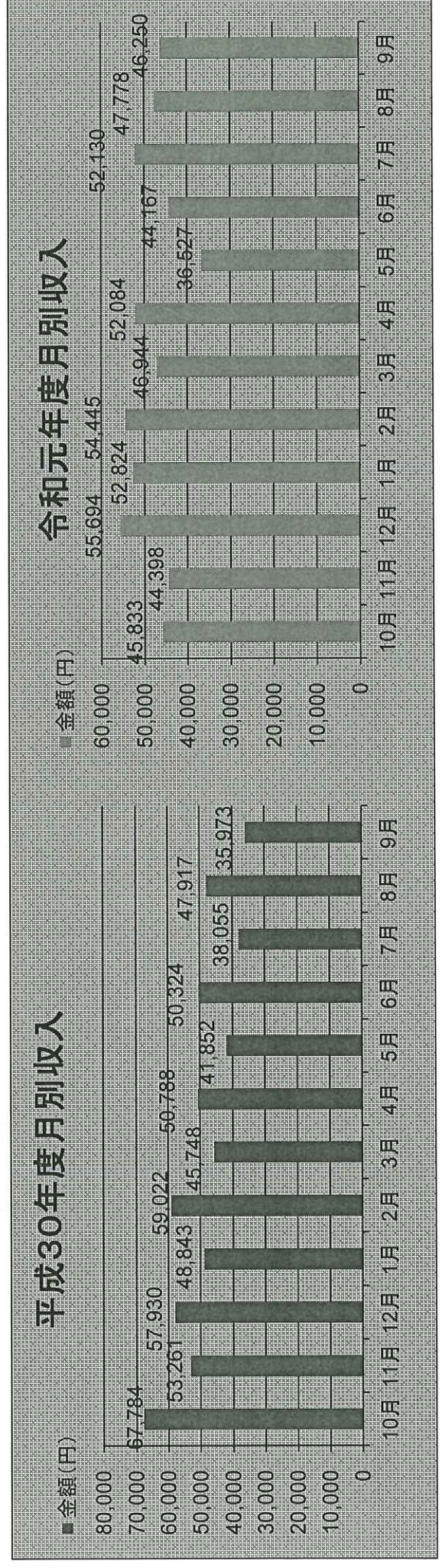
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画通り、事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

バスの周知・PRを継続し、町民が利用しやすい路線や運行ダイヤの再検討によって、より利便性が高く、身近なフィーダー交通として維持していく。

また、目標乗車人数の設定方法について見直しを行い、実態に基づいた目標値の設定を行う。

6) 目標・効果達成状況

乗車人数については、利用の実態を踏まえた目標値とすることによって、目標乗車人数32.7人/日(4月～11月)に対し29.4人/日、33.1人/日(12月～3月)に対し34.4人/日と降雪のある期間については目標を達成することができた。

○詳細

4月～11月(降雪のない期間)

・新得市街地→18.4人/日に対して、16.4人/日

・屈足地区→14.3人/日に対して、13.0人/日

12月～3月(降雪のある期間)

・新得市街地→21.0人/日に対して、20.9人/日

・屈足地区→12.1人/日に対して、13.6人/日

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄

議案第2号

コミュニティバスの一部路線変更について

1. 目的

コミュニティバスの運行にあたり、見通しが悪く危険な区間があるため改善を行う。
また、町内事業者の移転に伴い、コミュニティバス乗降者が減少すると見込まれるバス停について、バス停の廃止並びに路線変更を行う。

2. 路線変更を行う区間

新得市街地線 西地区 バス停26の進行方向を変更する

東地区 バス停46を廃止し、運行経路の変更を行う

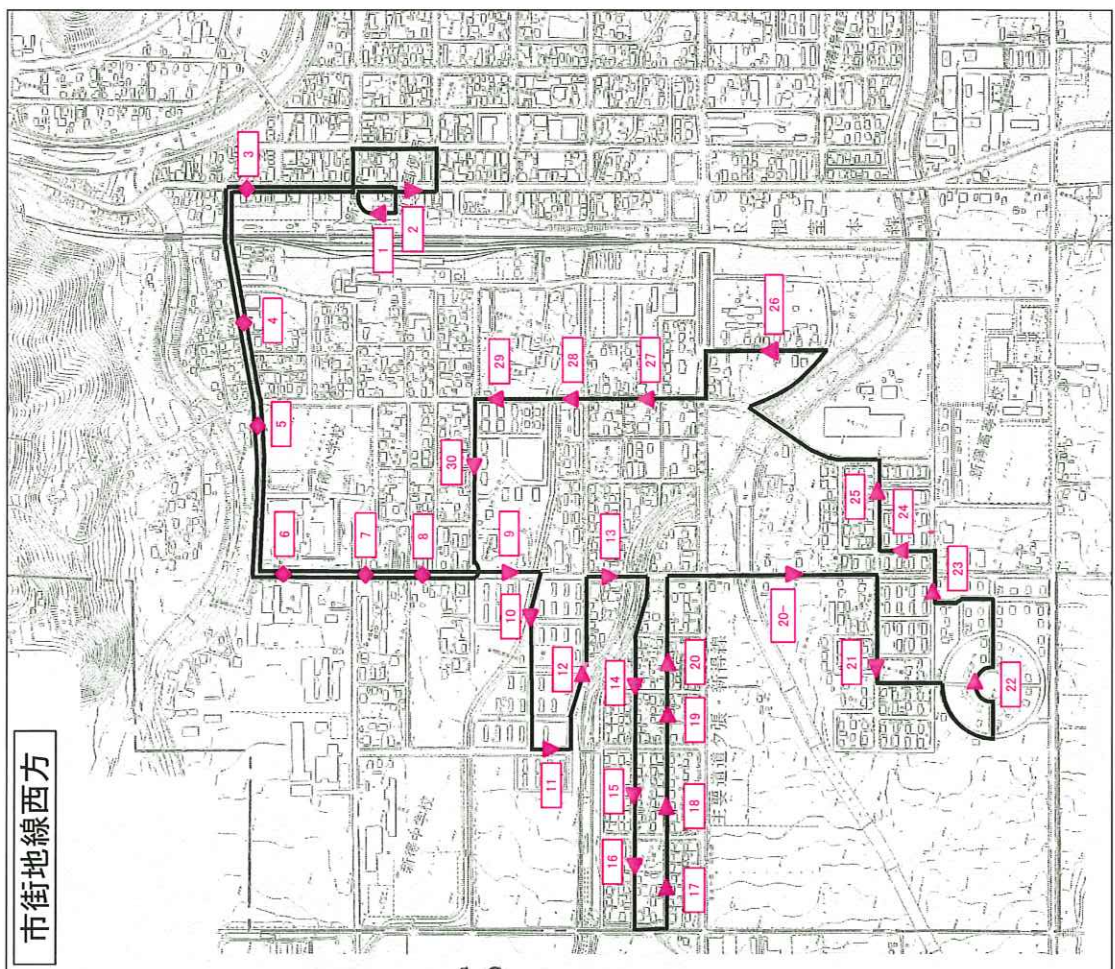
(詳細については別紙のとおり)

3. 適用する期間

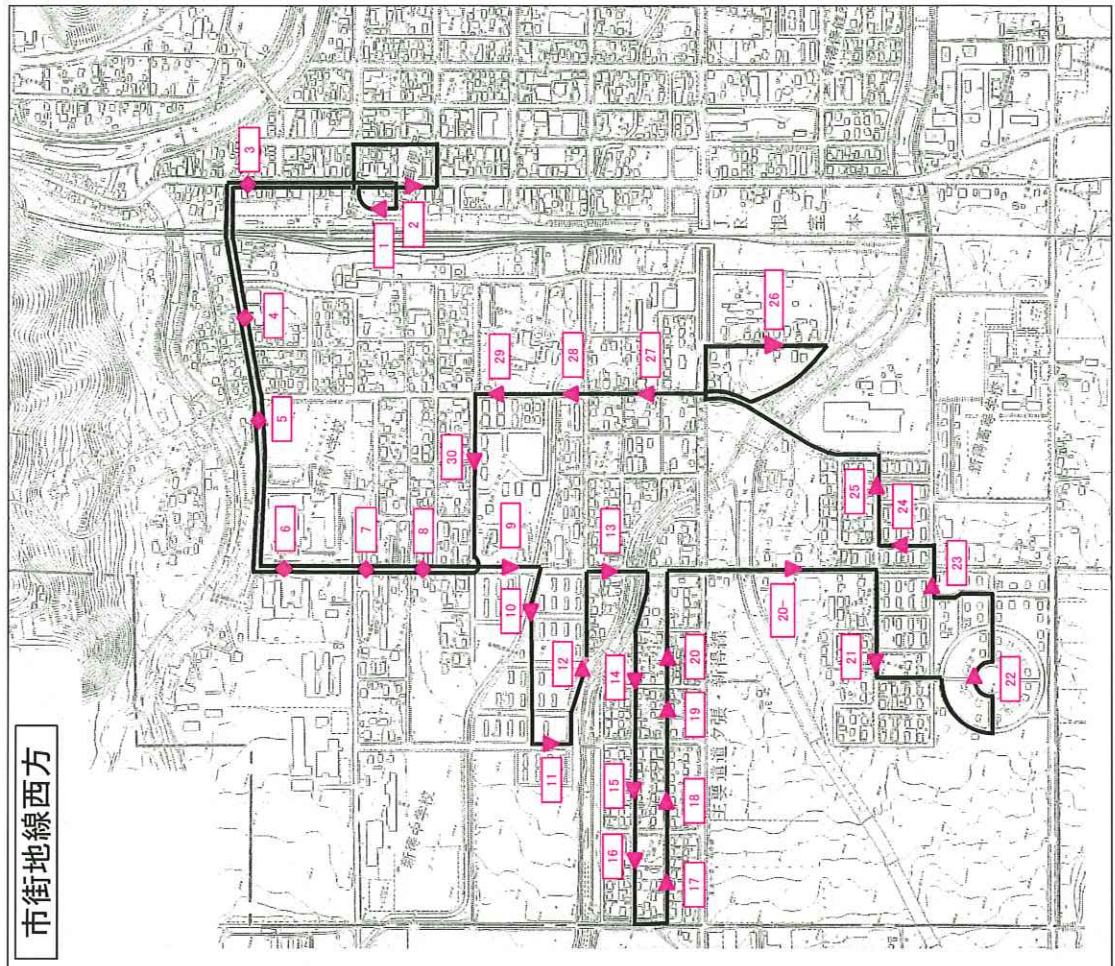
令和2年4月1日より通年

運行系統圖(市街地線)

(變更前)

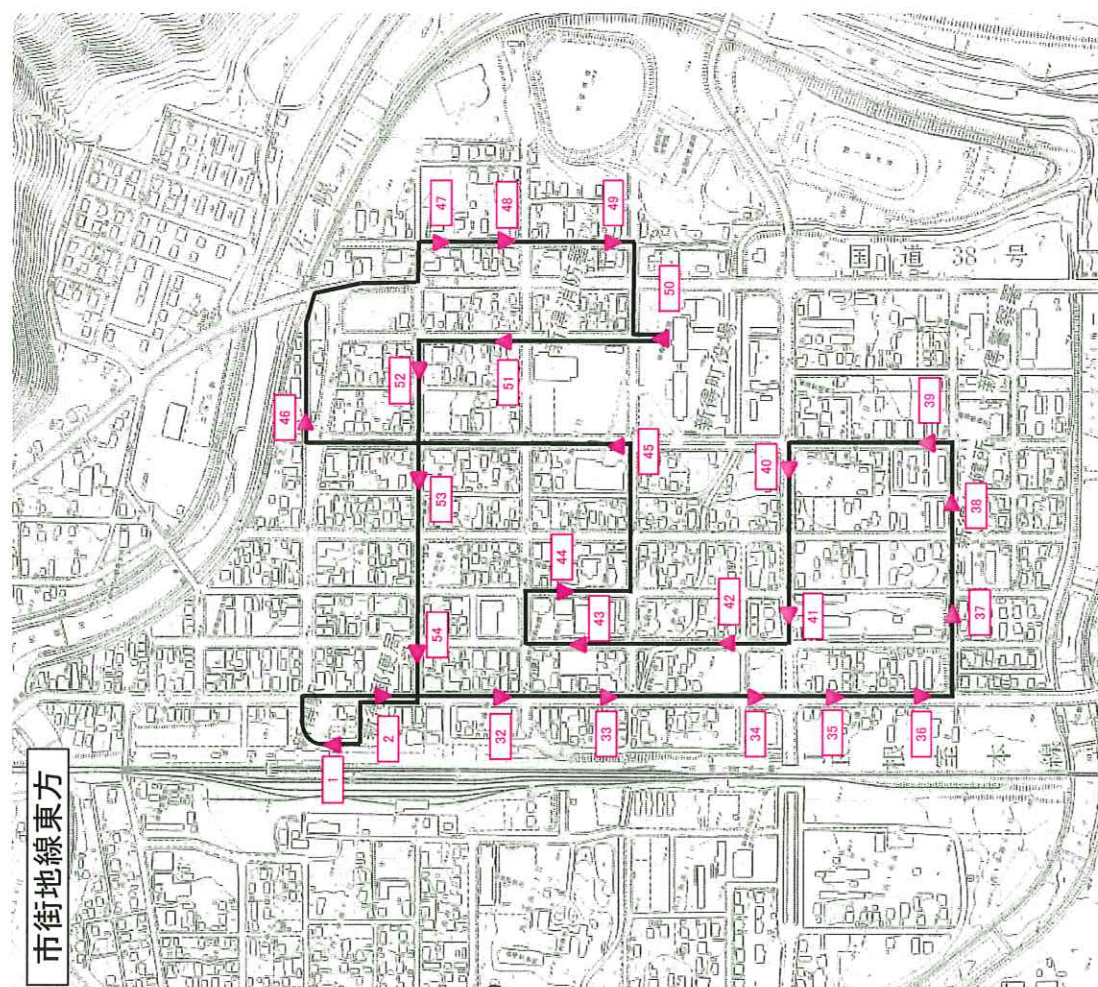


(變更後)

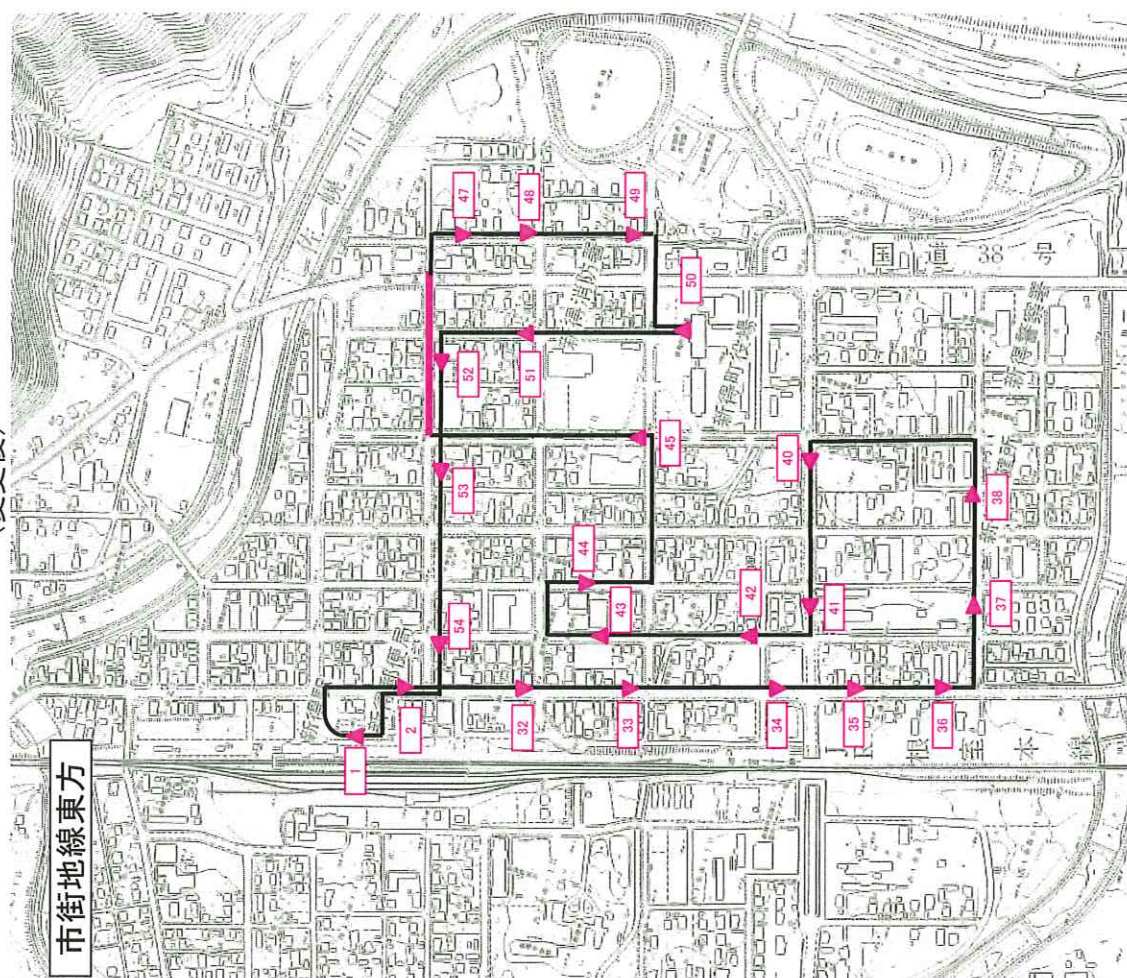


運行系統図(市街地線)

(変更前)



(変更後)



議案第 3 号

コミュニティバスの屈足地区線における路線変更案について

1. 目的

コミュニティバスの運行にあたり、屈足地区線においてはバスが重複して走っている区間があるため、効率的な運行や利用者の利便性の向上のため路線の変更等を行う。

2. 路線変更を行う区間

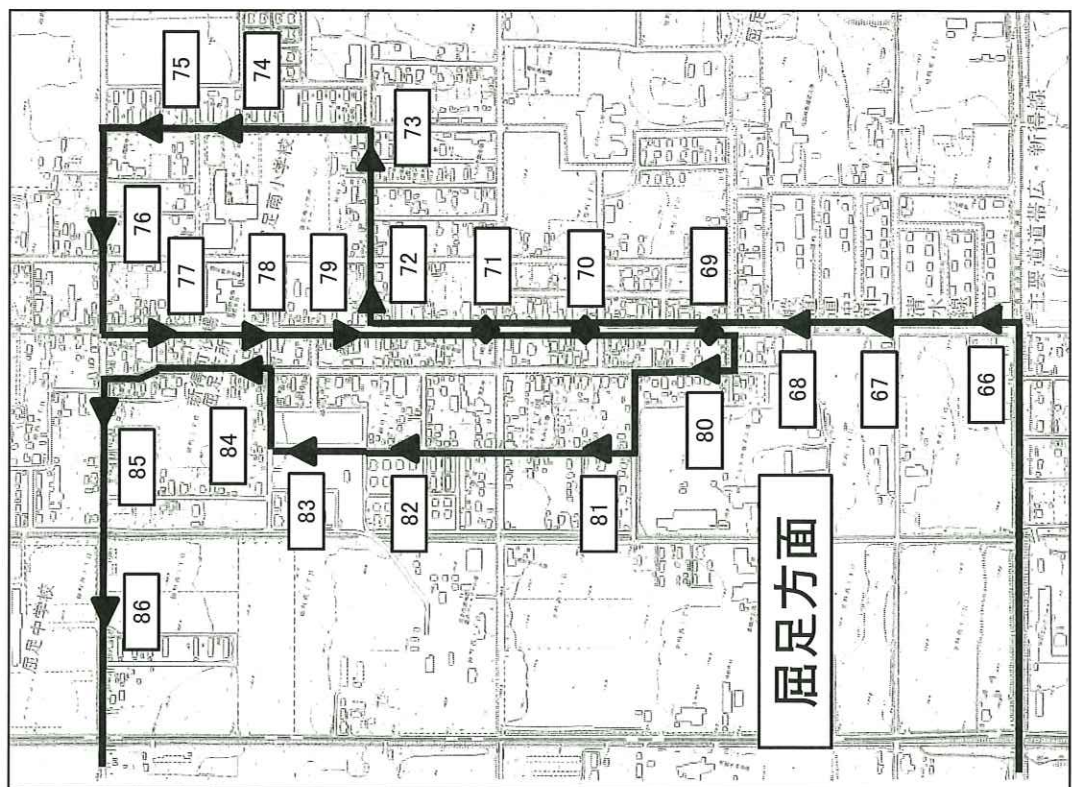
屈足地区線 バス停 69 からバス停 79 の区間について路線の見直し等を行う
(詳細については別紙のとおり)

3. 適用する期間 (予定)

令和 2 年 10 月 1 日以降の変更に向けて地域と協議を実施

運行系統圖(屈足地區線)

(現 行)



(變更案)

